

2005年11月29日

応力緩和型異方導電フィルムの基本特許取得

日立化成工業株式会社(本社：東京、執行役社長：長瀬寧次、資本金 153 億円)は、電子部品接続に用いられる異方導電フィルム(Anisotropic Conductive Film、当社製品名：アニソルム)において、多様化された電子部品に対して適用可能な応力緩和型異方導電フィルムの基本特許を取得しました。

異方導電フィルムは、主として液晶ディスプレイ等のフラットパネルディスプレイの回路接続に用いられる接着剤であり、微小回路を一括して接続するための基幹技術として幅広く利用されています。

当社は 1984 年に世界に先駆けて同製品の製造販売を開始以来、世界第一位のシェアを誇っています。2005 年には、長年同製品の開発に尽力した当社 実装フィルム事業部 開発企画担当部長 塚越 功が紫綬褒章を授与されるという栄誉も賜りました。

近年、電子部品の接続方式及び接続される電子部品の多様化に伴い、接続後の電子部品間に熱膨張率の差によるストレスが発生し、接続信頼性が低下するという問題が多発しており、高い接続信頼性を有する技術が求められていました。当社は、異方導電フィルムのリーディング企業として長年培ってきた技術を生かし、異方導電フィルムの接着後の弾性率を最適化することにより、接続後の電子部品間に発生するストレスを緩和する応力緩和型異方導電フィルムを開発して、この要求に応えることに成功しました。この技術により、回路の反りを低減させ、接続信頼性を大幅に向上させることができるため、多様化されたフラットパネルディスプレイの生産性向上に大きく貢献することができます。

当社は、本技術に係る発明を 1997 年に特許出願し、2002 年に特許査定を得ました。その後、特許の有効性について異議申し立てがあり、2003 年から係争を行ってきましたが、本年 4 月、知的財産高等裁判所の初判決日における唯一の原告企業勝訴を経て、この度、特許庁により特許権を維持する旨の決定がなされたものです。

今回取得した基本特許により、当社は、応力緩和型異方導電フィルムを当社の独自技術として差別化していくために本特許権を積極的に有効活用し、知的財産面からも事業の優位性を図ってまいります。

(報道関係お問い合わせ)

日立化成工業株式会社 コーポレート戦略室 広報担当 長谷川 TEL 03-5381-2371

<ご参考>

異方導電フィルム(アニソルム)を利用した回路接続の例

